

# Com@WILL<sup>®</sup>シリーズによる ユビキタスサービスの展開

永井 博 田村 元  
岩波 弘樹

Com@WILL<sup>®</sup>\*1) シリーズは、企業の業務プロセスのスピードアップのために開発されたコミュニケーションツールで、企業の生産性の向上および競争優位性の確保を実現する。Com@WILLシリーズによる、現在そして今後の企業向けのユビキタスサービスの展開についてその概要を紹介する。

## Com@WILLシリーズの概要

Com@WILLシリーズは、「IP CONVERGENCE<sup>®</sup> Server SS9100/AS8700\*1)」、「IPstage<sup>®</sup> EX300\*1)」、「IPstage<sup>®</sup> MX/SX\*1)」といった大容量から中小容量規模の領域（数内線から数万内線規模）のすべてのIPテレフォニーシステム的环境下で使用できるコミュニケーションツールである。IP化による通信費・運用/保守費のコスト削減に加えて、音声・映像・業務アプリケーションをシームレスに連携するトリプルプレー・コミュニケーションツールとしてビジネスプロセスの効率化を実現する。

Com@WILLシリーズには、端末の利用用途別に以下の4つの主製品がある。

### (1) ソフトフォンとして利用する製品

#### ① Com@WILLソフトフォン：

Microsoft Windows<sup>®</sup>\*2) 上で電話、TV会議、プレゼンス情報など高度で多彩なコミュニケーション機能を提供する製品

#### ② Com@WILLソフトフォンポケット：

Microsoft Windows Mobile OS\*2) を搭載したモバイル端末上でソフトフォンを利用できる製品

### (2) ブラウザ上で利用できる製品

#### ① Com@WILLアシスタント：

Microsoft Windows のWebブラウザと既存電話を連携させて電話帳やプレゼンス情報などを利用できる製品

#### ② Com@WILLモバイル：

無線LANデュアル携帯のWebブラウザを活用して電話帳やプレゼンス情報などを利用できる製品

現在、携帯通信事業者が無線LANデュアル端末を続々と市場投入している。また、通信キャリア各社がNGN (Next Generation Network) を本格的に構築し始めている。このような環境のもと固定電話と携帯電話を融合したFMC (Fixed Mobile Convergence) サービスやIPによる映像サービス等あらゆる通信サービスがIPネットワークに統合される方向にある。企業におけるユビキタスサービスとは、これらの統合されたIPネットワークを活用して、「企業内に限らずいつでも・どこでも・何とでもコミュニケーションできるために必要な確かな情報と手段」を「スピーディに、且つ安全なコミュニケーション環境として提供すること」にある。特に企業では、フリーアドレス化、グローバル化、テレワークの増大などで業務エリアの拡大とワークスペースの不特定化の傾向が進むと考えられる。Com@WILLシリーズでは、モビリティが実現されるうに、プレゼンス情報により個人の状態をリアルタイムに把握できるため、電話、TV電話、チャット、電子メールなどその時点で最適な通信手段をどこにいても使用できる。そのため、従来のIPテレフォニーの枠を超えた企業におけるユビキタスサービス実現のための重要なコミュニケーションツールとして期待されている(図1)。

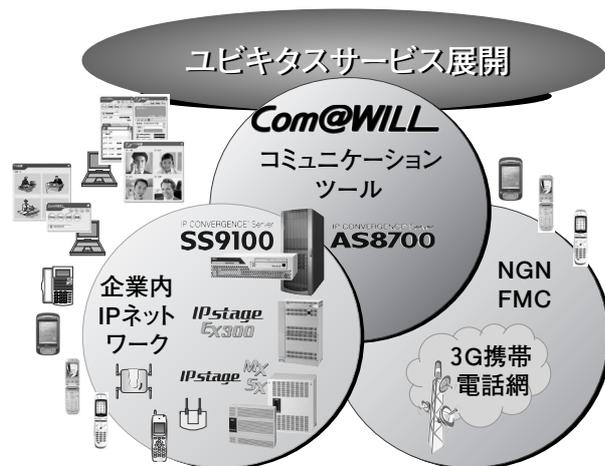


図1 ユビキタスサービスを実現するCom@WILLシリーズ

\*1) Com@WILL, CONVERGENCE, IPstage, eおとは沖電気工業株式会社の登録商標です。その他の国における登録商標です。

\*2) Microsoft, Windows, Windows MobileはMicrosoft Corporationの米国および

## Com@WILLシリーズによるサービス例

### (1) ソフトフォンを利用したサービス例

#### ① Com@WILLソフトフォンによるテレビ会議

Com@WILLソフトフォンを利用すると自宅やホテル、駅、空港などインターネットに接続できる環境でノートパソコンを使用して電話ができるだけでなくテレビ会議にも参加できる(図2)。

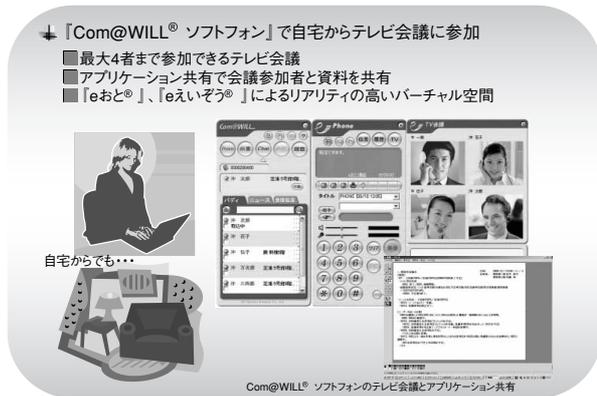


図2 Com@WILLソフトフォンによるサービス

たとえば、在宅勤務で自宅から、または海外出張中の営業マンが渡航先のホテルからのように、いつでも社内だけでなく社外からもテレビ会議に参加することができる。テレビ会議は最大4者までの会議が可能であり、参加者の顔を見ながら、その場で作成した資料も会議参加者との間でリアルタイムに共有できる。Com@WILLソフトフォンは『eおと<sup>\*1)</sup>』と『eえいぞう<sup>TM\*3)</sup>』を標準搭載しており、クリアな音質と高品質な映像により臨場感のあるテレビ会議を行うことができる。さらに、このテレビ会議システムは特別な会議サーバーを必要としない。IP CONVERGENCE Server SS9100 やIPstage EX300, IPstage MX/SXなどのIPテレフォニーサーバーさえあればCom@WILLソフトフォンを利用することでテレビ会議が開催できることも大きな特長の一つである。

#### ② Com@WILLソフトフォンポケットによるスマートフォン活用

Com@WILLソフトフォンポケットはNTTドコモ社のhTc ZのようなPDA(Personal Digital Assistance)と携帯電話が一体化された端末で利用できるサービスである(図3)。

OKIではスマートフォンへのソフトフォン対応をいち早く行った(2006年秋)。hTc Z端末にソフトフォンポ

\*3)eえいぞうは沖電気工業株式会社の商標です。 \*4)ホットスポットはNTTコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。



図3 Com@WILLソフトフォンポケットによるサービス

ケットを搭載することで、社外では携帯電話として、社内では内線電話として利用できる。また携帯とは異なりPDAの特長を活かしてMicrosoft Windows Mobile上で動作する多彩なアプリケーションも同時に利用できることが大きな特長である。

Com@WILLソフトフォンポケットにより、駅や空港やホテルのロビーなどにあるホットスポット<sup>\*4)</sup>から内線電話やプレゼンス情報などのサービスを利用することができる。たとえば、空港のホットスポットで相手の居場所や予定を参照し、状況を確認してワンクリックで電話をかけることができる。自分のプレゼンスについても居場所や今後の予定を登録することができる。

また、Com@WILLソフトフォンのテレビ会議に音声のみで参加することもできる。Com@WILLソフトフォンポケットは『eおと』を搭載しているため、携帯電話などのモバイル端末では実現が難しい「明瞭で臨場感のあるストレスのない通話品質」を提供できることも大きな特長である。

### (2) ブラウザを利用したサービス例

#### ① Com@WILLアシスタントによるプレゼンス情報利用

Com@WILLアシスタントを利用するとインターネット環境やイントラネット環境からWebブラウザでプレゼンス情報や共通アドレス帳、伝言メッセージなどを利用することができる(図4:次ページ)。

たとえば、出張先の他事業所からイントラネットに接続しWebブラウザを使用することで、離れている事業所の同僚の居場所や予定を簡単に確認することができる。また、確認した後そのままワンクリックで他事業所にある固定電話から電話をかけることができる。さらに、自分の予定が変わった場合には現在の居場所や予定を修正することもできる。

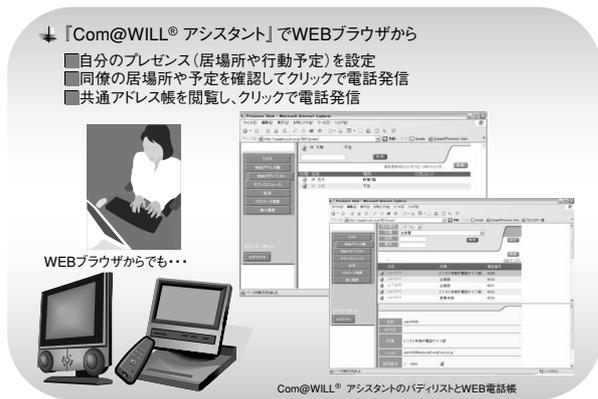


図4 Com@WILLアシスタントによるサービス

共通アドレス帳機能はサーバー内にあるアドレス帳を参照できる機能であり、共通のアドレス帳として一元管理することができる機能である。サーバー側のアドレス帳を利用するため、アドレス帳を持ち歩く必要がなく、個人情報漏えいの危険性が軽減される。

#### ②Com@WILLモバイルによる無線LANデュアル携帯活用

Com@WILLモバイルは無線LAN対応のデュアル携帯で利用できる。現在提供されている製品は、NTTドコモ社のFOMA® N900iL \*5) やFOMA® N902iL \*5), KDDI (au) のE02SAなどがある。携帯電話のiモードブラウザやEZweb®ブラウザ\*6) などの携帯ブラウザを使って、社内外を問わず携帯電話網経由でCom@WILLアシスタント同様に企業内のプレゼンス情報やアドレス帳を利用できる(図5)。



図5 Com@WILLモバイルによるサービス

たとえば、外出先から社内のサーバー内にあるアドレス帳を参照し、お客様へワンクリックで電話をかけることができる。サーバー側のアドレス帳を参照するのでアドレス帳を携帯電話上に持ち歩く必要がなく、万が一携帯

\*5) FOMA/フォーマ、は株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの商標です。 \*6) EZwebはKDDI株式会社の登録商標です。その他、文中の製品名やサービス名は一般に各社の商標または登録商標です。

電話を紛失した場合でも、お客様の情報など個人情報の漏えいの危険性を軽減することができる。

またCom@WILLモバイルもプレゼンスサービスと伝言サービスを利用することができる。プレゼンス情報を参照することで、外出先に居ても同僚の所在や予定を確認することができ、状況を確認してワンクリックで電話することができる。また、自分のプレゼンスについても居場所や今後の予定を登録することができる。

### Com@WILLシリーズによる ユビキタスサービスの今後の展開

前述の通り急速に進むネットワークのIP化に対応して通信キャリア各社がNGNへの取り組みを本格化してきている。そのような中、企業においても、モバイルセントレックスシステムの導入を始めとした移動網と固定網の融合(FMC)への流れが加速している。企業はこのようなインフラを十分に利用して、ユビキタス環境に対応したワークスタイルを実現し、生産性を向上させる必要がある。一方、昨今の企業コンプライアンスの観点から、情報漏えい防止などセキュリティ面での強化にも関心が高まっている。

OKIでは、今後このような背景の下、図6に示すような“場所を選ばない、安心・安全なユビキタスコミュニケーション製品”の開発が必要と考えている。

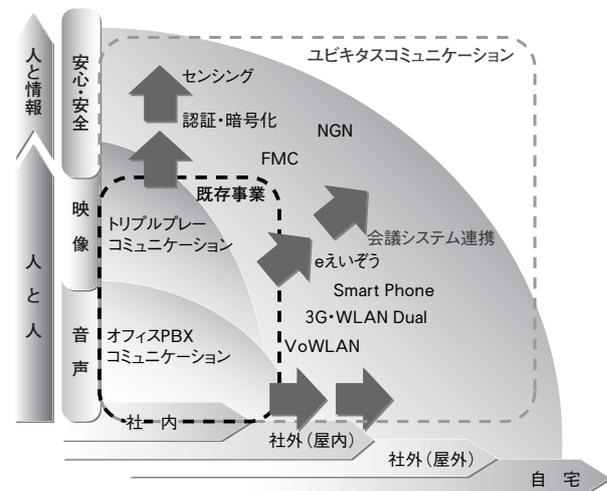


図6 場所を選ばない、安心・安全なユビキタスコミュニケーション

このように今後のユビキタスサービスを想定し、図7に示すような「Com@WILLソフトフォンポケットによる3G携帯機能と内線電話機能を融合する機能(たとえば、ソフトフォンポケットからダイヤルすると自動的に携帯発信か内線発信かを選択する機能)」の開発や、図8に示す

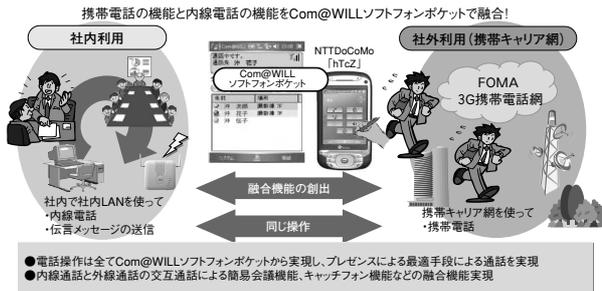


図7 Com@WILLソフトフォンポケットの携帯と内線電話の融合機能



図8 端末紛失時の端末管理モバイルソリューション

ような「情報漏えい対策などを実現する端末管理モバイルソリューション」を展開させていく。

## あ と が き

これまでOKIはIP技術を核に業界・技術を先導する商品群をお客様にお届けすることで、機器導入コスト、通信コスト、保守運用コストの低減に寄与してきた。また、先進的なIPテレフォニー製品であるIP CONVERGENCE Server SS9100/AS8700, IPstage EX300, IPstage MX/SXを提供することで、企業のこれまでのワークスタイルを変革するような新たなコミュニケーションスタイル

を創造し、時代の変化に即応する柔軟でスピーディな企業活動を支援してきた。今後は、企業のさらなる競争力強化に貢献するために、場所を選ばない「いつでも・どこでも、そして、安心・安全なユビキタスコミュニケーション」を実現する製品を充実させていく。◆◆

## 参考文献

- 1) 伊藤真弥, 中沢修, 今井雅文, 繁田好章: “WebとVoIPを統合するアプリケーションプラットフォーム”, 沖テクニカルレビュー197号, Vol.71 No.1, pp.18-21, 2004年1月
- 2) 遠藤克則, 高木一幸, 西田慎一郎, 川崎祐二, 大倉昇, 花井啓治: “IP電話/業務アプリケーション融合ソリューション”, 沖テクニカルレビュー201号, Vol.72 No.1, 2005年1月

## 筆者紹介

永井博: Hiroshi Nagai. IPシステムカンパニー IPシステム本部 企業NWシステム開発第三部 チームマネージャ  
田村元: Hajime Tamura. IPシステムカンパニー IPシステム本部 企業NWシステム開発第三部  
岩波弘樹: Hiroki Iwanami. IPシステムカンパニー IPシステム本部 企業NWシステム開発第三部 チームリーダー

# TIPS

## 【基本用語解説】

### プレゼンス情報

相手の状態(在席中, 離席中, 通話中など)や行き先や行動予定が, 電話をかけなくてもリアルタイムで判る。このため, 相手の都合に合ったコミュニケーションを, 最適なタイミングでとることができるようになる。

### eおと®

OKIが開発した, IPネットワーク上で従来の電話音質を越えた臨場感ある音声通話を可能とする高品質VoIP技術。ITUなどの国際標準の音声符号化方式はもとより, 種々の音声符号化方式に対応可能。IP電話機, PC(ソフトフォン), 携帯電話, PDAおよびデジタル家電などでの使用と, LSIおよび各種プラットフォームへの搭載が可能。

### eえいぞう™

ISO/ITUなどの国際標準化機関が定めた映像符号化方式「MPEG-4」「H.264」などに準拠し, IPネットワーク上で高速, 高品質, 低遅延な映像コミュニケーション, 録画再生を可能とする, OKIのビデオコーデック技術。伝送帯域が狭い携帯電話などのモバイル端末, TV電話等から, ハイビジョン対応のIPTVまで幅広く使用できることに加え, LSIおよび各種プラットフォームへの搭載が可能。